

週日の説教

金 大烈 神父 2010年8月11日(水)

《共同体の意味と一緒に祈る意味》

主の平和

今日は聖クララの記念日ですね。聖クララの名前についての説明は昨年も申し上げましたが、どういう意味でしたか。清い、汚れていない、^{けが}穢れのない、透明な状態をラテン語でクララ(CLARA)と言います。ですから、もし「自分の生き方がちょっと汚れているかなあ、濁っているかなあ」と思われる方は、早めにやり直してください。(笑い)冗談です。皆様は、清い心で一生懸命生きておられると、思っていますからご心配なさないで下さい。とにかくおめでとうございます。

今日の福音(マタイ 18・15-20)を読んで思い浮かんだ事は、共同体という言葉です。共同体といえば、皆様はどのような思いがするのでしょうか。この頃、共同体という言葉をよく使いますよね。

さあ、教会の共同体と利益を追求する団体との違いは何でしょうか。共同体といえば、皆様がまず思い浮かばせなければならないのは、多様性の中の一致です。これを無視してしまうと、昔戦争を起こしてしまった人達が行ってきたように、一方的に全く同じ画一的な道を誘導することになってしまいます。

皆様、周りをご覧ください。全員が違う顔でしょう。性格もそれぞれに全部違うでしょう。しかし私達は一致を求めます。お互いの違う所を認めながら、その中で一致を求めます。これが共同体です。しかし、人間的な弱さは、やっぱり自分と違う所を見つけたら、「合わない、気に入らない」と、そういう心の働きを感じます。私達が一致を求めるのはただひとつの理由です。今日の福音でイエス様がはっきりおっしゃっていますが、「どんな事でも心をひとつにして願えば全部聴いてくださる」という事です。

皆様、私達は皆共同体の一人です。もっと狭い言い方では家族です。その家族の意味をよく考えれば、共同体の意味もよくお分かりになると思います。これからも共同体の一人として、共同体の名によって、いろいろな事が行われると思います。その時、私はこの家族、この共同体のために、一番相應しい与りは何かと意識する事も、ひとつの祈りになると思います。

さあ、もうひとつの話です。「わたしの名によって二人三人が集まって心をひとつにして祈れば、神様はそれを全部聴いて下さる。」そして「二人三人が集まっている所にはわたしもそこにいる。」というイエス様のお話でしたね。皆様、祈りは一人でしなければならない時もあります。しかし、一緒にしなければならない時もあります。客観的に考えてみましょうか。一人で祈る事と、一緒に祈る事との大きな違いは何だと思えますか。一人での祈りは必然的に利己的な祈りに傾きます。自分の事ばかり考えて自分の内で願います。しかし、二人三人と一緒に祈れば、共に考えなければならない正しいことを意向として祈る事になります。このような違いです。ですから一緒に祈りながら「私、宝くじ

が当たりますようにお願いします。」とは言えないでしょう。しかし、一人で祈れば何でも祈れます。極端的に言えば「綺麗な人と出わせて下さい。私結婚したいのです。」とか、色々な個人的な祈りが可能になります。私達と一緒に祈れば、そういうわがまま的な祈りは消えてしまいます。イエス様がいつもおっしゃるその内容が、今日の福音でよく表されていると思います。二人三人が集まって祈れば、その意向は必ず善い意向になります。ですから求めなさいということです。皆様、そういう面をよく考えて、一緒に祈ろうとする心も必要である事を意識してください。

私はこのように考えています。夫婦でも一人だけの信者さんは手を上げて下さいますか。(何人かの手が上がりました) そうしたら夫婦二人が信者な方は? 私のように結婚しなかった人は? (笑い) ちょっと想像してみてください。この頃、子供の教育の問題で、親が子供達を導くのが難しくなって来た時代だと言われています。子供が親のいう事を聞かないのですよね。そして、いい意味でコントロールが出来ない時代になって来ています。そして、親が何か一言言っても軽んじたり、無視したりしてしまう風景はどの国でも、どこに行っても見える風景です。カトリックの信者である家族の中でも、そういう風景がよくみえます。想像して見て下さい。その子供達が小さい時から親が食事の前に二人で手を合わせて祈る姿を、夜寝る前に二人で今日の事を感謝して祈る姿をみて育ったら、子供達はどのように養成されると思いますか。一緒に祈る意味は、どの家族の中でもはっきり表れています。お父さんお母さん、お兄さん妹と一緒に家族で祈れば、子供達だけで「お兄ちゃん、一緒に祈ろう。お父さんとお母さんのために」という姿がみられるようになります。このような環境で育って来た子供達は、大人になっても心の分かち合いが出来るでしょう。しかし、このような素晴らしい宝物をもっている私達にもかかわらず、その姿をあきらめてしまっているのです。そして見せてあげないのです。

一人信者の方に「家族を導いて下さい」と私はお願いしている訳です。同じ信仰で、同じ所で、同じ未来を量りながら生きることが一番幸せな事でしょう。どの道を選んでも寂しくなります。しかし一緒に共に歩く相手がいるということ、これは素晴らしい事だと思います。ですからご主人が本物だと思われたら(笑い)そのご主人のために祈って下さい。「私が祈っても主人は変わりません。」いいえ、それは嘘です。百パーセント保証します。どちらでも一人がその相手のために祈れば必ず神様は聴いて下さいます。一回も失敗した事をみたことはありません。もし失敗したという人がいれば、その人は心を込めて祈らなかったのです。本当ですよ。祈って下さい。そういう意味で共に祈る私達の関わりも、本当に尊い貴重な関わりである事を意識しながら、お互いに理解し合おうとする、励まし合おうとする心が与えられるように、このミサを続けましょう。

ありがとうございました。